

平成 25 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071600979		
法人名	株式会社 吉兆		
事業所名	グループホーム ふきのとう		
所在地	福岡県久留米市荒木町白口2343-1		
自己評価作成日	平成25年7月29日	評価結果確定日	平成25年8月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズン
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成25年8月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は住宅街の中に位置し、運営者は長年地域のボランティア活動や地域役員として「人が人として生きる喜びを心に感じながら共に暮らせる時間と場所づくり」を理念とし、地域に根ざした事業所づくりに尽力している。その一環として、地域の夏祭りにも協力しており、ふきのとうを子供みこしの休憩所として提供して、子供会と利用者の交流をはかっている。また、住居を隣に構え毎日朝から夜遅くまで休みなくホームと関わり、夜間緊急の場合にも搬送先と同行し、家族や病院と対応する等運営者及び管理者が、自ら利用者やその家族の声に耳を傾けて速やかな対応に努めている。ほか、平成22年度より、認知症の進行予防のために、学習療法を導入し取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所12年目を迎え、初心にもどり理念である「人が人として生きる事のよこびを心に感じながら、共に暮らせる時間と場所作り」を浸透したいと、朝礼で唱和している。職員が地域毎のふれあい食事会や生き生きサロンに参加したり、恒例の子ども神輿の巡行、中学生や教職員の実習も受け入れ等、地域との交流が継続している。また、他地区の同業者と合同で、入居者の尊厳に配慮した身体拘束や虐待防止に関する研修会を開催したり、看取りの講和を他事業所の運営者をお願いしている。昨今、ホームで看取った入居者の出棺を他の入所者とともに見送るなど、研修の成果が日々の取り組みで実践されている。そして、レクリエーションのすざろくを活用した遊び心を満載した支援が入居者の笑顔や意欲を引き出すなど、さらなる理念の具現化が期待できる。また、近隣に複合型サービスも開所し、より地域に密着するサービスが展開されつつある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 1F/グループホーム ふきのとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と共に人が人として生きる喜びを心に感じ共に暮らせる時間と場所づくりを独自の理念」とし、日々サービス向上を目指している。玄関、リビング等誰からも目にとまる各所に掲示し常々カンファレンス等でも理念に触れる等して、共有し乍実践に向け取り組んでいる。	理念の「人が人として生きる事のよこびを心に感じながら共に暮らせる時間と場所作り」が浸透していないのではと感じられた運営者の発案で、毎朝、朝礼で唱和している。職員は常に理念を意識した支援を実践しており、入居者のありがとうに励まされていると話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会して隣組の行事や公民館の清掃に入居者と職員も参加し、地元の人たちとの交流に努めている。近隣所の方たちとの気軽な挨拶・声かけを多く実践している。	地域毎のふれあい食事会に職員が参加したり、生き生きサロンで職員がアロマハンドマッサージを施術し、参加者から喜ばれている。今年も子ども神輿がホームを巡行したり、中学生や教職員の実習も受け入れるなど、地域との交流が継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域区ごとのふれあい食事会にスタッフ・看護スタッフが参加し認知症についてのミニ講話や健康チェックを実施する等取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	県・市議会議員、民生委員、町内老人会、地域包括支援センター、家族、入居者、市役所長寿介護課職員等出席のもと、2ヶ月毎に開催している。地域との連携・関係づくりの提案、行事参加等の取組みを行っている。地域からの要望、家族からの要望、ホーム活動状況などを取り組んでいる。	2ヶ月毎に開催され、入居者の状況や行事、ヒヤリハット事例等を報告している。議事録を作成し、職員に回覧している。開催時間は市職員の業務時間に合わせているため、家族が参加しにくいのが現状である。参加者からは、地域行事等の情報を得ている。	入居者や家族が参加しやすい環境や時間の設定の検討をお願いします。また、家族に会議内容を伝え、意見を促すなど、より実りある会議になることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当窓口に出向き意見交換を行ったり、アドバイスを受ける等積極的な取り組みを行っている。また、運営推進会議議事録等を活用し、行政との連携を図っている。また、市の要請でNPO介護福祉サービス事業者協議会副理事長、久留米市介護事業講座等に積極的に取り組んでいる。	市からはタイムリーな情報提供が日常的で、朝礼で周知している。協議会のグループホーム部会長を施設長が引き受けていることもあり、同事業者間の連携を生かした研修が活発に行われている。地域包括支援センターに居室情報を提供し、紹介から入居に至ったこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対して勉強会の実施や医師や看護師からアドバイスを受けている。また、カンファレンス等で話題に触れる等で再認識させる場をつくり徹底した周知をする事に努めている。	「草をとりにいく」とか、「足腰が弱るから」との理由で玄関から出ようとする入居者もあるが、職員の心配りや玄関に設置されたチャイムで対応している。他地区の同業者と合同で身体拘束に関する研修会を開催している。事例を通じた研修会のため、参加した職員からは、よく理解できると好評である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新しい職員が勤務に従事する際は、必ず研修を行い又、毎月行われるカンファレンスを中心に機会がある毎に議題とし、勉強会を開催している。マニュアル・資料を用い学習の機会を設けている。また、常々から一人一人が注意し乍防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、実際に成年後見人制度を利用している利用者がある。その他、家族説明、アドバイスを行うと共に資料等を活用し、カンファレンス、フロアーホーム内研修等勉強会で理解を深めている。	日常生活自立支援事業の活用者があり、利用料等の支払いに支援員が来訪している。成年後見制度利用者もあり、制度や事業の関するパンフレットを整備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書を十分に説明し、理解を得るように努めている。解約時にも十分説明し理解納得して頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見については、所長をはじめ全職員が家族と積極的にに関わり、その思いや意見を聞き、ケアノートへの記載、カンファレンス時の協議にも生かしている。また、玄関には、アンケートポストを設置し活用している。また、運営推進会議等の参加もあり、家族来訪時には、スタッフが声掛けをし、積極的にご意見、ご要望を聞くように努めている(スタッフに名札をつける事は家族からの要望で実施した)	年1回家族の会を敬老会行事に併せて開催している。家族会ではホームへ謝辞が多く、具体的な意見は出ていない。運営者は開設12年の経過から、家族がオープンになったと話している。以前は認知症を隠したいとの思いの家族が多いため地域や近隣の入居者はいなかったが、現在は入居した妻を毎日訪問する近隣在住の夫もいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員の意見を検討し取り入れられるように、機会ある毎に1人1人が素直な意見を言えるように働きかけている。また、運営者は、利用者の受け入れの際には、職員と相談の上決定している。また、職員雇い入れ時も職員に相談した上で決定している。	毎月1回開催しているミーティングは、率直な意見交換が行われてる。職員の要望でエプロンを購入したり、入居者との関係を配慮し、ユニット間で職員が異動している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金は、一時金として全職員に支給して、給与水準の改善をはかっている。また、管理者や職員個々の努力や実績を評価するために、考課制度を策定中である。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	子育て中の職員のための福岡県の「子育て応援宣言登録事業所」として積極的に登録し、更に定年退職年齢を60歳から65歳に引き上げる等配慮している。また、職員研修の希望があれば優先して受講できるように配慮している。職員募集に関しては、年齢制限なし男女不問、ただし有資格。	最近の採用は、まず短時間でもグループホームの雰囲気を見てもらい、本人が働けそうだと感じたら面接という手順で行っている。その後、職員の印象を聞いて決定している。20歳～60歳代と職員の年齢層は厚く、また男女の職員を雇用している。研修参加や資格取得を支援し、アロマハンドマッサージ講習会に参加した職員もいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	行政機関が発行した人権・同和等のパンフレット等を教材として、人権教育、同和教育、人権啓発につとめ外部研修会にも参加し、カンファレンス・フロアーホーム内研修など勉強会等も実施している。	他地区の同業者と合同で、人権に関する研修会を開催している。身体拘束や虐待防止が入居者の尊厳の関わるとして、日頃から学習の機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会への積極的な参加がなされている。また、毎月のカンファレンスを中心に機会がある毎に、参加者の報告や報告書の提示がある。職員が研修の為に書籍類・DVD・資格取得の為に教材DVD(ケアマネ・介護福祉士)等の貸し出し等実施している。市内の他事業所と協力して新人研修や実技講習を実施している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	出来ない事を言うよりも、良い所を見つけてほめながら育てるように心がけている。目的を持たせ、スタッフのためにホームでケアマネや介護福祉士受験対策のDVDや教材本、また介護関連の書籍を購入し貸し出しを行っている。市内の他事業所と協力して新人研修や実技講習を実施している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム側からの訪問、若しくは来所して頂き、ご家族とご本人と面談をする機会をつくり、その際、出来るだけご本人の話を傾聴し、求めていること等を受けとめる努力をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず、御家族の意向を良く聴き、困っていること、不安な気持ちに共感し、御家族の立場に立って受容する努力をしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談を受けた時から、本人及び家族が何を求めているかを十分に話し合い検討している。そして、それがGHではないと思われる時は、他の施設等を紹介している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に手打ちうどん等の作り方の手ほどきを受けながら、皆で昼食として頂くなど、煮物や畑仕事、ならわし事には日常的に、かつ自発的に関わり自然と学び支え合う関係づくりがある。人生の先輩として尊敬を持って接している。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	祝い事を一緒に喜んだり催しごとを通して楽しんだり様々な場面での環境づくりに努め、喜怒哀楽を共に共感しあうよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親族、友人等の来訪を積極的に受け入れている。また、記念に写真に撮って利用者や来訪者に贈っている。近況報告、ふきのとうだより等で関係継続の支援をしている。	入居した妻を毎日訪問する近隣在住の夫もあり、夫婦で過ごす時間を支援している。また、同窓会への出席を迷われていた入居者は、職員の手で同行して出席することができた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみや家事において、自然に入居者同士の関わり合い支え合いの場がある。また、スタッフはそのような場面を大切に、さりげなくフォローできるように努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所を余儀なくされた利用者の方には、時間の許す限りスタッフや管理者等は面会に行っている。また、退所された家族にも年賀状・暑中見舞いの送付や電話による交流をおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中で、様々な本人が発するサインから(言葉、表情、顔、動作)一人ひとりの思い暮らし方、聞き取りできる方に、日頃のコミュニケーションに交えて把握に努め、困難な方には生活歴等を元に検討を重ねるよう努めている。	職員を担当制にして、入居者の意向や思いを把握している。特に夜勤や入浴介助時は、入居者と1対1でじっくり関わる時間になっている。担当職員が毎月入居者の状況を知らせ、家族と情報交換をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや日々のコミュニケーションの中で得る情報、また入居時に家族にアセスメントシートの記載を依頼し、少しでも馴染みの暮らしを継続して頂けるように努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録への記載、また近況報告書等を、全スタッフが目を通し現状を把握するよう努めている。又、スタッフ・看護師・かかりつけ医との相談や情報交換をしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の関わり合いの中で入居者の思いの把握に努め、また、ご家族面会時には意向をお尋ねし、担当スタッフ、計画作成担当者で原案を作成し協議して個々の利用者本位のケアプランに努めている。	担当職員がモニタリングや評価を実施し、介護計画作成担当者に入居者や家族の意向に沿った介護計画を作成している。介護計画には、少しずつ変化する入居者の意向が記載されている。	入居者の意向を支援するケアを実践するために、モニタリングが容易にする具体的な目標の設定をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の他にスタッフノートやケアノートがあり、気づきや変化、情報共有の実践、介護計画の見直し、カンファレンスでの検討などに活かして全職員が実践状況を確認している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携をしている病院の医師に毎週往診してもらっている。また、訪問歯科や送迎受診ができる眼科、皮膚科往診、訪問理美容の利用により、利用者や家族の負担を軽減するように努めている。また、学習療法を導入し、認知症の進行予防に努めている。ほか、NPOと協力して、宝塚歌劇の観劇も行った		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営者は長年少年補導員や地域のボランティア団体で活動しており、警察、民生委員、消防、公民館等とのつながりは深く、色々な面で協力が得られている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームとして複数のかかりつけ医がおり、週1回及び2週に1回の往診がある。かかりつけ医からのナースの対応もある。また、かかりつけ医が24時間いつでも対応可能な支援体制をとっている。また、利用者の入居以前からのかかりつけ医の希望については、家族やナース、スタッフが通院の支援をしている。	入居者が入れ替わる毎に、新しいかかりつけ医との連携がとられている。往診できないかかりつけ医は、家族に受診支援をお願いしている。服薬のヒヤリハット対策として、調剤薬局に分包や分包装袋の記名を相談したり、職員がトリプルチェックをしている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには、准看護師が配置されていて、毎日の状態の報告や受診状況の結果等日常の健康管理について相談しながら支援している。また、かかりつけ医看護師とも密に連携を図っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医、スタッフ、家族の話し合いをもっている。また、看護サマリー等を活用し情報交換を行っている。また、病院でのカンファレンス参加やリハビリの見学などを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	なり得る可能性について、ご家族、かかりつけ医と相談を行いながら、家族の希望を聞き、連絡を密に取り全職員も含め支援の共有化を図り希望に沿った支援体制に努めている。また、かかりつけ医と看護師と家族の関係を密にし、その都度相談連絡を行う体制を作っている。また、職員全員が支援を共有できるようにしている。また急変時のマニュアルや連絡網などを作ってスタッフが安心して介護できるようにしている。	整備した重度化や終末期に向けた意向確認書を取り交わしている。先日訪問看護ステーションとの連携で看取りを支援し、ホームからの出棺に他の入居者も参列している。看取りを経験している他同業者の運営者を講師に招き、学習会をしている。「他の入居者に伝えたほうが良い」や「家族から感謝していただいた」等の講話を参考に、看取りに関わっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時(看取りの場合)と救急(突発的な場合)のマニュアルがあり勉強会等で習熟に努めるとともに、看護師による指導も行っている。普通救命講習に定期的に参加し、全員が実施できる様に努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣支援の働きかけを行うとともに、商店や警察、消防等に認知症の実態、症状等の説明を行い日常から地域住民の方々への協力要請し、協力を得られる様働きかけている。	自動火災通報器も設置し、近隣等約20名に協力をお願いできる体制作りをしている。ホームは2階建てであるが、3方に出口があり、避難しやすい構造になっている。年2回の避難訓練を行い、消防署からは夜間想定ではなく、夜間の訓練の必要性を指摘されている。	未曾有の自然災害の多発している昨今、個々の入居者の非常持ち出し品や袋について、家族と相談されてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝のミーティングでは、利用者の名前を頭文字とは関係のないアルファベットで呼び、利用者が聞いてもわからない様にする等、個人のプライバシーや誇りを尊重し、トイレ誘導等はさりげなく自然に対応する様にしている。他者と比較することなく言葉かけや対応を行っている。	入居者と目線を合わせ、穏やかな口調での対応をしている。訪室時の声かけもあり、プライバシーを重視した対応をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人にあった声かけや促しの工夫に努め、それぞれが自己決定できる場面を多くつくるようにしている。毎日の中でその日に着る洋服を選んでもらったりお茶の時間に好みの物を選択してもらう等日々の気分や希望に応じた暮らしが出来るような場面づくりがある。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気が良くて、利用者の希望があればドライブに出かけたり、また、夜見たいTV番組があれば多少遅くなくても見てもらっている。朝どうしても起きれない方は、遅い朝食をとってもらおう等、個人のペースに合わせるのももちろん、その日の状態や気持ちを考慮している。職員側の決まりや都合が優先ではなく一人ひとりの希望に添って機会を作る等の支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分に合わせた洋服の選択など、好みを取り入れたおしゃれが出来る様な場面づくりを行っている。また、外出できる方は、なじみの美容室や近隣の美容室を、困難な方は訪問理美容院を利用して髪形等個人好みを伺って実施している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる時には、利用者の意見を取り入れ、職員も一緒に楽しく食事をしている。個々に応じた家事手伝い、皮むきや味付け等の調理片付け等と一緒に、共働出来る場面づくりに努めている。また、食事を楽しみながらさりげない介助を心がけている。	中庭のプランターで季節の茄子やピーマン、ゴーヤ等が栽培され、目と舌で味わっている。入居者はそれぞれのペースでゆっくりと食事しており、食が進まなくなった入居者に職員が咀嚼や嚥下状態に合わせた介助をしている。下げ膳や食後に床掃除をする入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューからおおよそのカロリーを計算し、食事量、水分摂取量をチェックすることにより、栄養バランスや水分量の把握に努めている。また、嚥下状態、体調に合わせてトロミ、寒天ゼリー等を利用し、食形態(量、大きさ、硬さ等)も個別に対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食口腔ケアの実施また、自力動作が困難な方にもスタッフが介助、スポンジ等の用具を利用し、清潔保持に努めている。また、訪問歯科医によるケアの実施。また、本人やスタッフへの口腔ケアの指導も受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、QOLの高い生活を送ることを目的に排泄チェックリストの活用により個人の排泄パターンに従って誘導若しくは、介助支援を行っている。夜間だけポータブルを使っている利用者もいるが、出来る限りトイレ誘導を行っている。	オムツを使用している入居者もあるが、職員はできるだけトイレでしてほしいとトイレ誘導をしている。トイレの場所が分るように大きくトイレと記載している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を取り入れ、希望者には腹部マッサージ等個人別に対応している。また、食事は野菜やイモ類を多く取り入れ便秘の予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	色々な入浴剤を利用することによって、温泉気分を味わってもらおう等その日のそれぞれの希望に応じて柔軟に対応するようにしている。毎日入浴者もいる。また、必要に応じて決められた時間でなくても対応できるように支援している。	レクリエーションのすぐろく景品の「ふきのとう温泉入湯券」で、入浴拒否の入居者も思わず入浴されている。明るく清潔で家庭的な浴室の前には「湯」の文字が染められた暖簾がはられ、一日おきの入浴支援が楽しみながら行われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を大切にすることはもちろんのこと、日々の身体状況に応じ自由に休息や昼寝時間等本人の希望に添うよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	手渡し、または与薬にて確認等を行う。症状の変化に応じた変更等も看護師からかかりつけ医に相談し、報告・記載がある		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	菜園仕事や家事手伝い等、個々に応じた役割や、また、日々のレクリエーションには、カラオケやケアボックス、民謡などを唄ったり、踊ったりして利用者に楽しんで貰えるように工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各々の希望に応じ、近隣への買い物等積極的に対応している。日常的にドライブに出かけるなど支援している。ホームでの買い物の際にも希望者をドライブを兼ねた外出をしている。また、近くのスーパーへの買い物にも一緒に行ったりしている。	土筆とりやふきとり、校区のまつり見学など外出している。近くにあるスーパーに食材の買い物に同行することが多い。本人の希望もあり、高校の同窓会への出席を支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできない利用者もいるが、個々に応じて持たせている。また、外出や買い物の際に使える支援や対応を行っている。買い物をし、お金を、支払い領収書をもらうなどでお金の大切さや自信につながる支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的にいつでも電話を利用できるようにしている。家族からのまた、家族への支援も行っている。又、知り合いからの手紙にも返事を出せるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、常に生花を飾り利用者や来訪者に季節感を感じてもらえるよう努めている。また、階段横には、利用者の手作りの品や思い出深いいけし等を家族の希望を取り入れ飾っている。また、騒音を避け日光等はカーテンやブラインドを利用し、自由にリビングでも横になったりできる様ソファー等も設置している。	ホーム周囲に植えられた桜や木蓮が季節毎に入居者や家族、来訪者を楽しませている。居間から、中庭の生簀でゆったりと泳ぐ鯉やプランターに栽培された季節の夏野菜を眺めることができる。2階の渡り廊下は干された洗濯物がひらめき、ほっとする風景である。窓から差し込む光をブラインドで調節するなど、空調や換気を管理している	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファーを置くことで、気の合った利用者同士、または一人で過ごせる空間となっている。玄関では椅子に座って花を眺めて、休憩することができる。また、学習療法を行うための共用の個室があり、独りになれる居場所も用意している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、本人様の使い慣れた生活用品(ダンス・テーブル・家具・テレビ等)を持ち込まれる様に進めている。また、馴染みの暮らしが継続できる様に畳かフローリングかの選択が出来、家族の写真を貼ったり本人の作品を飾ったりしている。	入口に大きく入居者名を掲示している。自分で居室の清掃をされる入居者もある。畳敷きにベットの設置したり、家族の写真が置かれた筆筒や仏壇が置かれ居室もあり、居心地良い居室づくりをしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出入り口のドアをトイレのドアと間違えるので暖簾を利用して区別出来るようにしたり、居室の入口には手摺をつけて、楽に靴の脱ぎきが出来るようにしている。また、畳とフローアの段差には段差スロープを設置している		